

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成28年6月27日（月）～平成28年7月3日（日）〔平成28年第26週〕の感染症発生状況

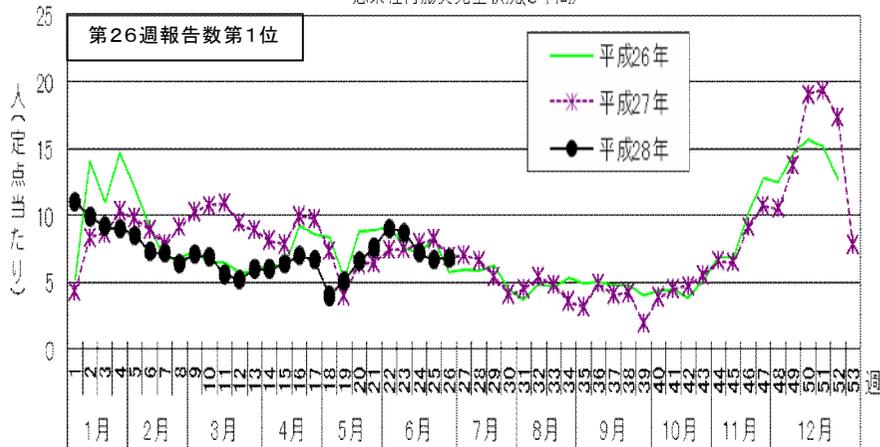
第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.81人と前週（6.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

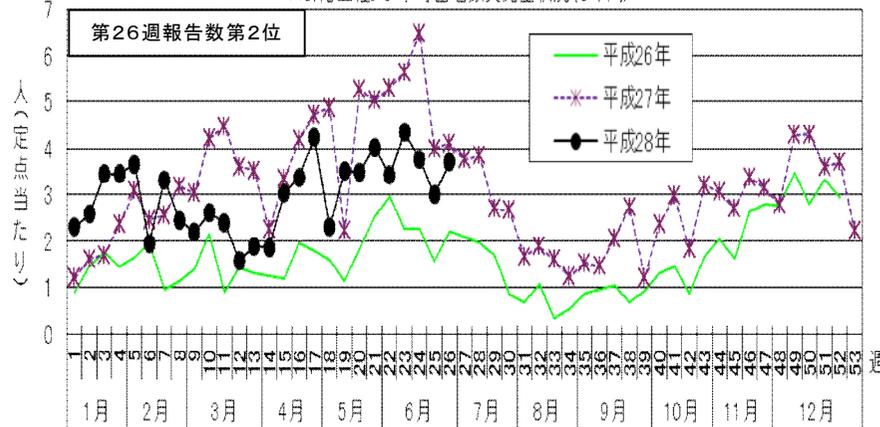
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.70人と前週（3.00人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.78人と前週（3.11人）から横ばいで、かなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



そろそろ流行か！？～ヘルパンギーナ～

川崎市におけるヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は、第26週（平成28年6月27日～平成28年7月3日）に2.57人となり、1週前の0.70人から急激に増加しました。今年は、昨年比「手足口病」よりも「ヘルパンギーナ」の報告数が多く、7月末の流行のピークに向けて、さらに増えることが予想されます。

ヘルパンギーナってどんな病気？

感染経路: 飛沫感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが口に入って感染）

潜伏期間: 2～4日

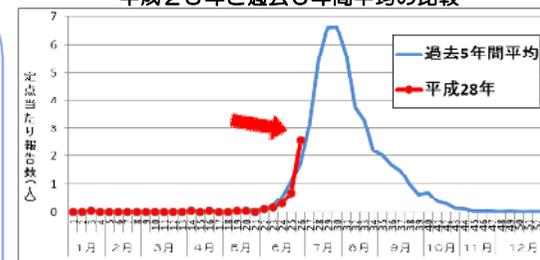
症状: 突然の高熱（38～40℃）、のどの痛み、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
一般には軽症（数日で軽快）

予防: 糞便へのウイルス排出は発症から数週間持続するため、オムツ交換時等の排泄物の適切な処理、手洗いの徹底

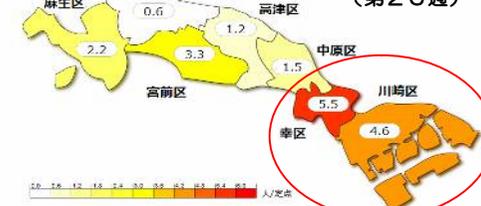
合併症: 発熱に伴う熱性けいれん
まれに髄膜炎、心筋炎などを併発



川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況
—平成28年と過去5年間平均の比較—



川崎市のヘルパンギーナ分布マップ
(第26週)



川崎市感染症情報発信システム (KIDSS)